

AS

AIR SUS/ACTIVE SUS
controller



製品をご使用になる前に、本取扱説明書に記載の「ご使用になる前に」を必ずお読み頂き、内容を承諾頂いた場合のみご使用ください。本体を梱包しているビニール袋を開封した時点で、内容を許諾したとみなします。また他の方に譲渡した場合においても承諾は継続されます。



Special thanks to : *AS admiration*



取扱説明書

エアサス/アクティブサスリモートコントローラー

ASR681II



製品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください

目次

目次／パーツリスト	1
本製品の機能／特長	2
ご使用になる前に(必ずお読みください)	3～4
各部の名称	5～6
コントロールユニットの動作について	7～8
装着したら始めに初期設定をおこなう	
本体での初期設定1 [車種設定]	9～10
本体での初期設定2 [保安基準設定]	11～12
コントロールユニットでの初期設定1 [車種設定]	13～14
コントロールユニットでの初期設定2 [保安基準設定]	15～16
基本的な使いかた [電源 ON / OFF]	17
基本的な使いかた [車高メモリー切り替え・ノーマル復帰]	18
基本的な使いかた [車高設定]	19～22
車種別注意事項	23～28
車両側ハイスイッチとの併用について	29
その他の機能	
バルブアラーム機能	30
本体音量(音量A)及びバルブアラーム機能の音量(音量B)の設定方法	31～32
正常に動作しないときは	
本体およびコントロールユニットのリセット方法	33～34
本体で各設定をおこなう	
本体の電源を入れる	35
車高設定	36～37
本体音量(音量A)及びバルブアラーム機能の音量(音量B)の設定方法	38
故障かな?と思ったら	39～40
車種設定値一覧	41
アフターサービス／メーカー保証について	42

パーツリスト

<input type="checkbox"/> ASR681II 本体	1 個
<input type="checkbox"/> リモートコントロールユニット	1 個
<input type="checkbox"/> リモートコントロールユニット取付ステー※	1 個
<input type="checkbox"/> 充電ケーブル	1 本
<input type="checkbox"/> マジックテープ(リモートコントロールユニット固定用)	1 セット
<input type="checkbox"/> 両面テープ	1 枚
<input type="checkbox"/> 取扱説明書(本書)	1 冊
<input type="checkbox"/> 保証書/ユーザー保証登録カード	1 枚

※リモートコントロールユニット固定用。ご使用の際はリモートコントロールユニットにキズを付けないようご注意ください。

本製品の取り付けには、別売の車種別専用ハーネスが必要です。

本製品の取り扱いの流れについて

- ①本書に記載されている注意事項(「ご使用になる前に」3～4ページ)を必ず全てお読みください。また、車種別の注意事項(「車種別注意事項」23～28ページ)及び各項目内の注意事項も必ずお読みください。
- ②本製品を車両に取り付けます。※取り付けには別売の車種別専用ハーネスが必要です。取付説明書(取り付け時の注意)も必ずお読みください。
- ③**ご使用になる前に必ず車種設定および初期設定をおこなってください。車種設定は本体およびコントロールユニット両方で行ってください。詳しくは9～16ページを参照してください。**
- ④各機能について本書をよくお読みになり、ご理解の上ご使用ください。

機能

●車高設定機能

最大16段階階車高設定+スーパーLOW設定が可能です。

●ハイトメモリー機能

2つの車高設定値をあらかじめメモリー。ノーマルを含めて3つの車高設定値を簡単に切り替えることができます。

●バルブアラーム機能

各輪のエアバルブ及びコンプレッサーを監視し、車高上下動作をアラーム音で確認することができます。(アクティブサス車を除く)

特長

●エアサス/アクティブサス車※に対応

地道な実車テストから得られたエアサス車/アクティブサス車の細かな制御データ全てをマイコン内蔵メモリーに蓄積、車種ごとに異なる制御方法を選定し、それぞれの車種に合った車高制御をおこないます。 ※41ページに記載の車種のみ

●リモートコントロールユニットを標準装備

本体を手元に設置しなくても、リモートコントロールユニットで車高設定や車高メモリーの切り替え、ノーマル車高に切り替えることが可能です。

●左右バランス調整も可能(フロントのみ)

前輪左右の車高を独立で設定できますので、左右バランスを調整することが可能です。

●マイコン制御ならではの各種安全機能を搭載

高速走行時に自動的に車高が下がる純正機能をカットし、高速走行時の下がりすぎを防止するASC(オートスピードコントロール)機能を搭載*。車高設定後、速やかに車高変化が始まるクイックレスポンス機能を搭載。(URS206・UZS207 マジェスタ、URJ202W ランドクルーザー、レクサスLS、レクサスRX、レクサスLXを除く)

※UCF31 セルシオマイナー後、UZS186・187・URS206・UZS207 マジェスタ、URJ202W ランドクルーザー、レクサスRX、レクサスLXは車高が下がる前に車高を上げる制御おこないます。レクサスLSは一定速度以上で車高制御を停止させて車高を固定します。いずれも「NORMAL」選択時は純正機能が働きます。(詳しくは23～28ページ「車種別注意事項」をご参照ください)

ご使用になる前に (必ずお読みください)

注意事項の定義

ご使用前に、この「ご使用になる前に」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。

- 危険** 守らないと、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が高いもの。
- 警告** 守らないと法律に違反する恐れがあるもの。
- 注意** 守らないと車両及び製品を破損、または故障させる恐れがあるもの。
- 重要** 本製品を使用する上で知っていただきたいもの。

危険 予防安全機能について (LEXUS SAFETY SYSTEM+ / Toyota Safety Sense搭載車など)

レクサス車・トヨタ車などの予防安全機能搭載車で、車高を変化させた状態で走行すると、システムが車両状態を正確に把握できなくなり、**下記の予防安全機能が正常に動作しない可能性があります。**

※車高メモリーを「NORMAL (no)」に戻せば問題ありません。

- プリクラッシュセーフティシステム
- レーンキーピングアシスト
- アダプティブハイビームシステム
- レーンディパーチャーアラート
- オートマチックハイビーム
- レーダークルーズコントロール

※各機能の詳細はディーラーなどでご確認ください。

危険

- 車高を変化させた状態での走行は大変危険ですので、必ずノーマル車高に戻してから走行してください。
- 走行する際は、必ず車高設定を「NORMAL」にしてください。車高を変化させた状態での走行は、アライメント変化などからタイヤの異常磨耗やトラクション不足、ハンドリング異常などを引き起こし、また、乗り心地悪化の原因となります。
- 運転者が運転中に、本製品の操作をしないでください。事故や誤操作の原因となる場合があります。



警告

- 車高を下げた状態で公道を走行すると違法となる場合があります。
- 本製品を使用して発生した違法行為・安全義務違反による罰金・減点などに関する責任は一切負いません。



注意

- 本製品の使用中、またはイグニッションスイッチ OFF 後 3 分間は本体および専用ハーネスを外さないでください。外すと本製品および車両のエアサス / アクティブサスコンピューター故障の原因となります。
- 本製品は車高センサーを故意に調整して車高を変化させたり、サスペンションシステムの改造・加工等をおこなったりしている車両には適合しません。
- 車高を変化させた状態では絶対に走行しないでください。車高を変化させた状態で走行すると、サスペンションに負担がかりサスペンション破損の原因となります。また、ボディ (スポイラー等) と地面・輪止め等の接触による車両の破損、損傷または事故の恐れがあります。
- 本製品はノーマル車両をベースに設計されています。純正または純正と同サイズのタイヤ・ホイール以外のインチアップホイール、ワイドタイヤ装着車、またはスパーサーによるワイドトレッド化された車両には本製品を絶対に使用しないでください。タイヤと車体 (フェンダー・サスペンション等) の接触による車両の破損、損傷または事故の恐れがあります。



重要

- 本製品は車高を変化させた状態での走行を目的として開発されたものではありません。
- 本製品を使用したことによるエア (アクティブ) サスペンションシステムに関連するすべて (サスペンション本体・コンプレッサー・車高センサー・サスペンション CPU 等) の故障・損傷・破損および車体 (ボディ・エアロパーツ・タイヤ・ホイール・マフラー等) の故障・損傷・破損において当社では一切の責任を負いません。
- 保安基準設定をスタンダードに設定していても、車両個々の状態・エアロパーツや社外マフラー・インチアップホイールの装備状況などによっては保安基準内の最低地上高を確保できない場合があります。また、スタンダード設定は保安基準適合や車検対応を保証するものではありません。よって車検を受ける際は、本製品を専用ハーネスごと取り外して*ノーマル状態に戻してください。
※本体のみ取り外して専用ハーネスを接続したままにしておくと、車両側エアサス (アクティブサス) ペンションシステムに不具合が生じます。
- 車両側に異常がある場合、本製品が正常に作動しない場合があります。
- 本製品は車種別専用ハーネスが設定されている車種専用です。車種別専用ハーネスが設定されていない車種には取り付けできません。また、車種別専用ハーネスが設定されていない車種への取り付けに関するサポートは一切おこなっていません。
- 日産アクティブサス車の場合、サスペンションの特性上車高を下げた状態でイグニッションスイッチを OFF にすると車高がノーマルに戻ります。
- 本製品を使用して発生した事故、違法行為、車両の故障または破損等の責任は一切負いません。
- 本製品に貼付されている封印シールをはがさないでください。はがすと、保証期間に関わらず保証対象外となります。

各部の名称

本体

SW ロックスイッチ

本体スイッチ操作を無効／有効に切り替えます。

受信アンテナ

金属に接触すると受信感度が低下しますので、本体設置時にはご注意ください。

MODE スイッチ

車種設定や設定変更した車高設定値を決定する時に使用します。

SELECT スイッチ

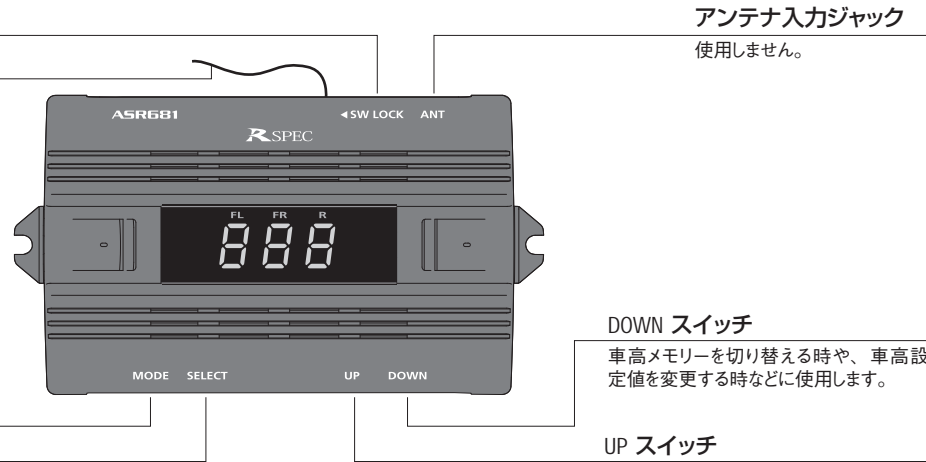
車高設定値を変更する時や、設定箇所を移行させる時に使用します。

SPd 表示確認について

車両に接続しましたら、初期設定(9～16ページ)後に必ず以下の確認(SPd表示確認)をおこなってください。

走行開始と同時に本体に「SPd」(SPd)が点滅表示される*かどうかご確認ください。表示しない場合は車種別専用ハーネスの接続ミスが考えられますので、取付説明書をご参照のうえ接続を見直してください。

*エンジン始動1回に付き1度しか表示しません。再確認をおこなう場合は再度エンジンをかけなおしてください。



アンテナ入力ジャック

使用しません。

DOWN スイッチ

車高メモリーを切り替える時や、車高設定値を変更する時に使用します。

UP スイッチ

車高メモリーを切り替える時や、車高設定値を変更する時に使用します。

リモートコントロールユニット (以下コントロールユニット)

SEND スイッチ (★)

重要 車高設定値の決定や各種設定値を一括送信します。

※車高メモリーを切り替えたり(18ページ参照)、車高設定値を変更する(19～22ページ参照)と、設定情報を本体に送信します。本体はコントロールユニットからの情報を受信すると「ピッ」音(本体音量A:31ページ参照)を発生しますが、音を発生しなかった場合は正常に受信していません。このような場合は、SENDスイッチを押して設定情報を再度送信してください。

SELECT スイッチ (■)

車高設定値を変更する時や、設定箇所を移行させる時に使用します。

充電ケーブル接続用ジャック



背面

使用しません

車高メモリー表示

4輪独立車高設定値表示



UP スイッチ (▲)

車高メモリーを切り替える時や、車高設定値を変更する時に使用します。

DOWN スイッチ (▼)

車高メモリーを切り替える時や、車高設定値を変更する時に使用します。

保安基準設定表示

スイッチクリック音について (本体/コントロールユニット共通)

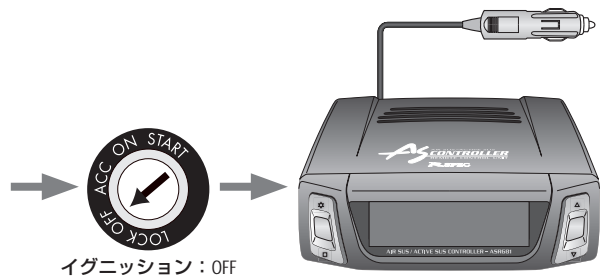
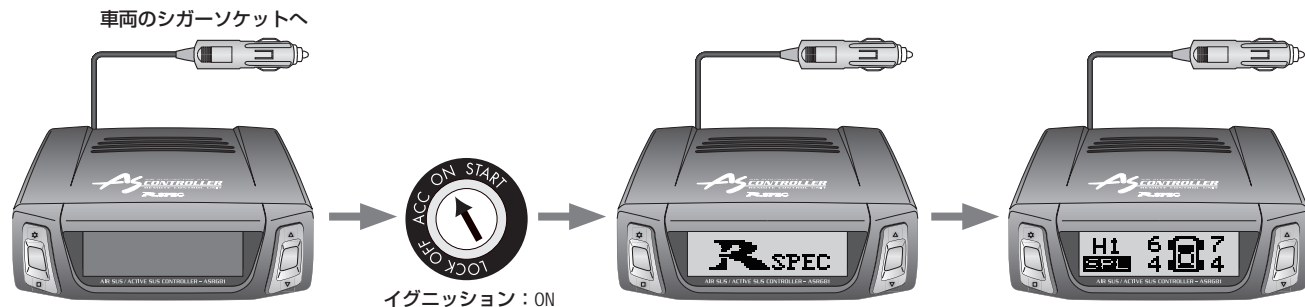
※電池残量が少なくなると、液晶表示が薄くなったり電源が入らなくなったりします。そのような症状が発生しましたら、速やかに充電してください。また、充電中はコントロールユニットが高温(最大60℃)になりますが故障ではありません。充電終了後、自動的に温度が下がります。

電源を入れたとき(コントロールユニットのみ)	「ピッ」
ノーマル制御に切り替えたとき	「ピピピッ」
スーパーLOW設定にしたとき	「ピーッ」
各種設定値を一括送信したとき(コントロールユニットのみ)	「ピーッ」
コントロールユニットからの電波を受信したとき(本体のみ)	「ピッ」
車高メモリーを切り替えたとき	「ピッ」
車高設定値を変更するとき	「ピッ」
車高設定値を決定したとき	「ピーッ」
操作無効なスイッチを押したとき	クリック音なし

コントロールユニットの動作について

コントロールユニットの動作

コントロールユニットは充電電池を内蔵していますので、充電電池が充電されていれば充電ケーブルを接続していなくても動作します。充電ケーブルを接続してあると、車両側イグニッションスイッチのON/OFFに連動してコントロールユニットの電源もON/OFFします。合わせて充電も自動的におこないます。

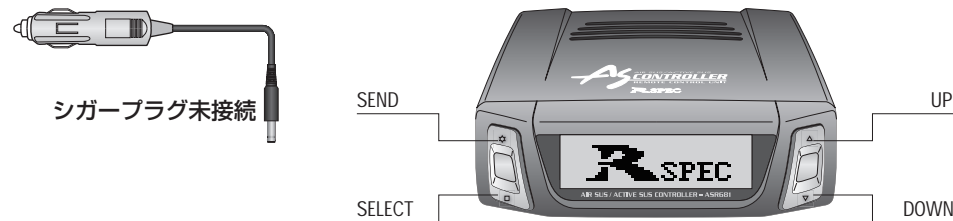


ONE POINT

- 約 30 分充電すると連続約 12 時間の使用が可能です。また、30 分以上充電し続けても保護回路が内蔵されていますので、過充電することはありません。尚、充電中はコントロールユニットが高温（最大 60℃）になりますが故障ではありません。充電終了後、自動的に温度が下がります。
- 本体への電波到達距離は本体の設置場所等により変わりますが、最も良い条件で約 3m です。
- SEND スイッチを押すと、内部の設定内容を一括送信します。
- 各設定値を変更する毎に、内部の設定内容を送信します。

コントロールユニット単体の電源を入れる

コントロールユニットのいずれかのスイッチを押してください。



コントロールユニット単体の電源を切る

SEND スイッチを 3 秒以上押し続けてください。

※何も操作せずに 5 分経過すると自動的に電源が OFF になります。



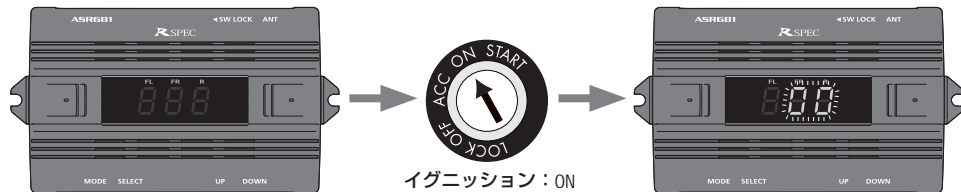
装着したら始めに初期設定をおこなう

本体での初期設定 1 【車種設定】 ※必ずおこなってください。

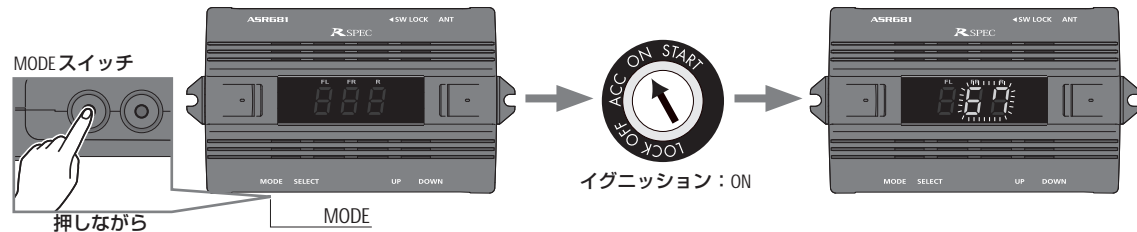
⚠ 重要 車種設定は必ず本体・コントロールユニット両方ともおこなってください。

1. 車種設定モードに切り替えます。

初めて電源を入れたとき 車両側イグニッションスイッチをONにすると自動的に車種設定モードに移行します。



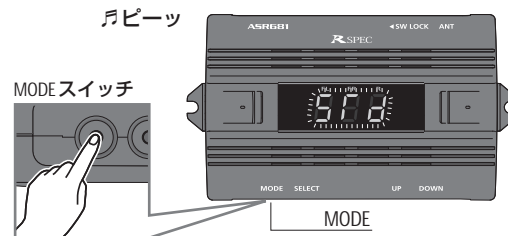
他の車種に設定してあるとき MODEスイッチを押しながら車両側イグニッションスイッチをONにします(エンジンは始動しない)。



2. UPスイッチ及びDOWNスイッチで装着した車種に対応した車種設定値を選びます。(41 ページ「車種設定値一覧」をご参照ください)。

3. 車種設定値を選びましたらMODEスイッチを押します。

4. 車種設定値が決定され、保安基準設定モードに移行します。(11 ページへ)



⚠ 重要 MODEスイッチを押さずに車両側イグニッションスイッチをOFFにすると設定値が決定されません。

ONE POINT 車種設定モードで車種設定値を変更、または同一の車種設定値を選んで決定すると、他の全ての設定値が初期値に戻ります。



本体での初期設定 2 [保安基準設定]

重要 車種設定をおこなうと、自動的にこのモード「3」に移行します。

ONE POINT

- 初期値は「保安基準設定」になっています。
- 保安基準設定/保安基準解除設定はコントロールユニット・本体のどちらでも設定することができます。

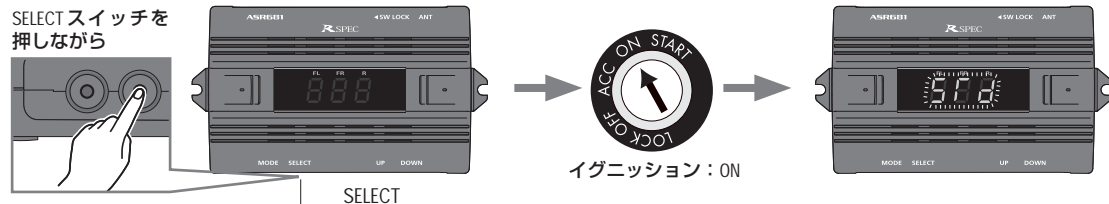
保安基準設定/保安基準解除設定 制御比較表

	走行中の車高メモリー切替	走行中の車高設定段階変更	車高設定段階
保安基準設定 STd	×	×	制限あり*
保安基準解除設定 SPL	○	○	制限なし*

* 18 ページ参照

重要
コントロールユニットと本体とが通信した際、保安基準設定/保安基準解除設定を含めた本体内の全ての設定値をコントロールユニット内の設定値に更新しますので、本体で設定した値よりもコントロールユニットで設定した値のほうが優先されます。(但し、車種設定値のみ更新されません)

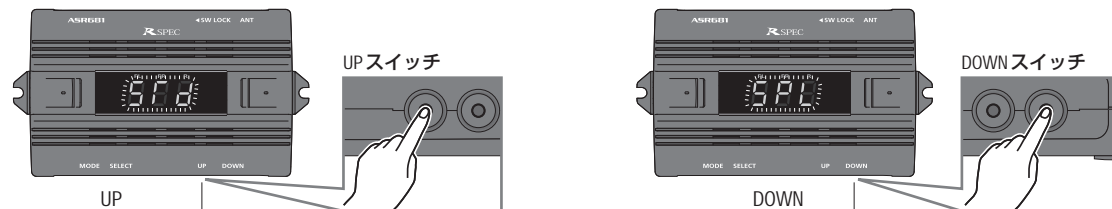
1. SELECTスイッチを押しながら車両側イグニッションスイッチをONにして(エンジンは始動しない)、保安基準設定モードに切り替えます。



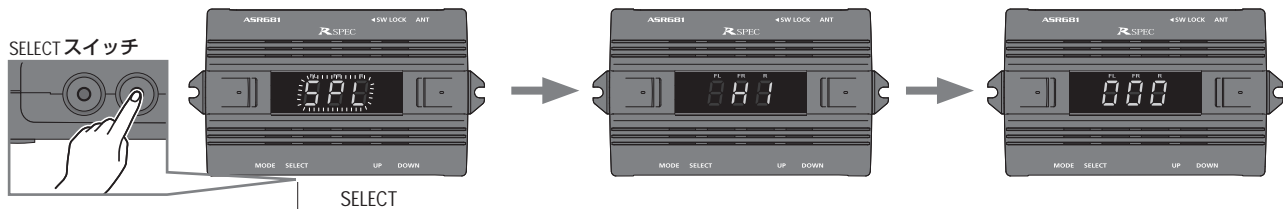
2. 現在の設定状態が表示されます。保安基準設定は「STd」、保安基準解除設定は「SPL」と表示されます。

ONE POINT 出荷時は保安基準設定「STd」に設定されています。

3. UPスイッチを押すと「STd」、DOWNスイッチを押すと「SPL」が選択されます。



4. 選択後、SELECTスイッチを押すと「ピーツ」と音が鳴り設定が終了します。



ONE POINT SELECTスイッチを押さずに車両側イグニッションスイッチをOFFにすると設定が決定されません。

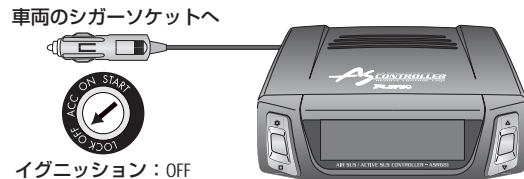
5. 車両側イグニッションスイッチをOFFにします。

6. イグニッションスイッチをONにすると車種設定値→保安基準設定→**000** (H1) → **000** (000) と表示されます。車種設定と保安基準設定が正しいことを確認したら初期設定終了です。設定が正しくない場合は初期設定をやり直してください。

コントロールユニットでの初期設定 1 [車種設定]

※必ずおこなってください。

1. 車両側イグニッションスイッチOFFの状態、充電ケーブルを車両側シガーソケット及びコントロールユニットに接続します。

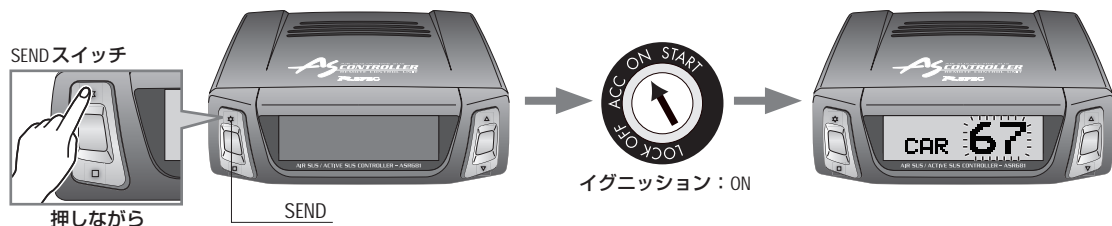


2. 車種設定モードに切り替えます。

初めて電源を入れたとき 車両側イグニッションスイッチをONにすると自動的に車種設定モードに移行します。



他の車種に設定してあるとき SENDスイッチを押しながら車両側イグニッションスイッチをONにします(エンジンは始動しない)。

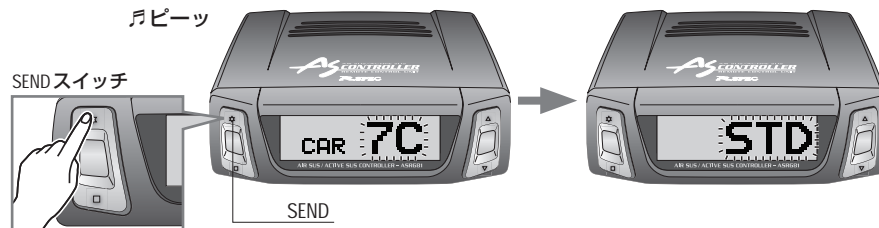


ONE POINT スイッチを押すとコントロールユニットの電源が入りますが、そのまま操作を続けます。

3. UPスイッチ及びDOWNスイッチで装着した車種に対応した車種設定値を選びます。(41ページ「車種設定値一覧」をご参照ください)。

4. 車種設定値を選びましたらSENDスイッチを押します。

5. 車種設定値が決定され、保安基準設定モードに移行します。(15ページへ)



ONE POINT SENDスイッチを押さずに車両側イグニッションスイッチをOFFにすると設定値が決定されません。

コントロールユニットでの初期設定 2 [保安基準設定]

重要 車種設定をおこなうと、自動的にこのモード「4」に移行します。

ONE POINT

- 初期値は「保安基準設定」になっています。
- 保安基準設定/保安基準解除設定はコントロールユニット・本体のどちらでも設定することができます。

保安基準設定/保安基準解除設定 制御比較表

	走行中の車高メモリー切替	走行中の車高設定段階変更	車高設定段階
保安基準設定 STD	×	×	制限あり*
保安基準解除設定 SPL	○	○	制限なし*

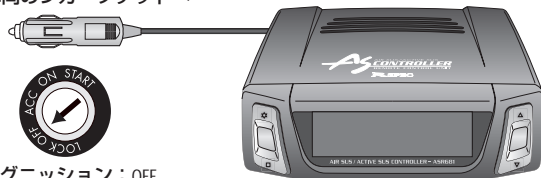
* 18 ページ参照

重要

コントロールユニットと本体とが通信した際、保安基準設定/保安基準解除設定を含めた本体内の全ての設定値をコントロールユニット内の設定値に更新しますので、本体で設定した値よりもコントロールユニットで設定した値のほうが優先されます。(但し、車種設定値のみ更新されません)

1. 車両側イグニッションスイッチOFFの状態、充電ケーブルを車両側シガーソケット及びコントロールユニットに接続します。

車両のシガーソケットへ



イグニッション：OFF

2. SELECTスイッチを押しながら車両側イグニッションスイッチをONにして(エンジンは始動しない)、保安基準設定モードに切り替えます。

ONE POINT

SELECTスイッチを押すとコントロールユニットの電源が入りますが、そのまま操作を続けます。

3. 現在の設定状態が表示されます。保安基準設定は「STD」、保安基準解除設定は「SPL」と表示されます。

SELECTスイッチを押しながら



イグニッション：ON



ONE POINT 出荷時は保安基準設定「STD」に設定されています。

4. UPスイッチを押すと「STD」、DOWNスイッチを押すと「SPL」が選択されます。



UPスイッチ



DOWNスイッチ

5. 選択後、SELECTスイッチを押すと「ピーツ」と音が鳴り設定が終了します。また、同時にこの情報を本体に送信し、本体がこの情報を受信すると本体が「ピツ」音を発します。もし本体が音を発しないときは、SENDスイッチを押して本体が音を発したことを確認してください。

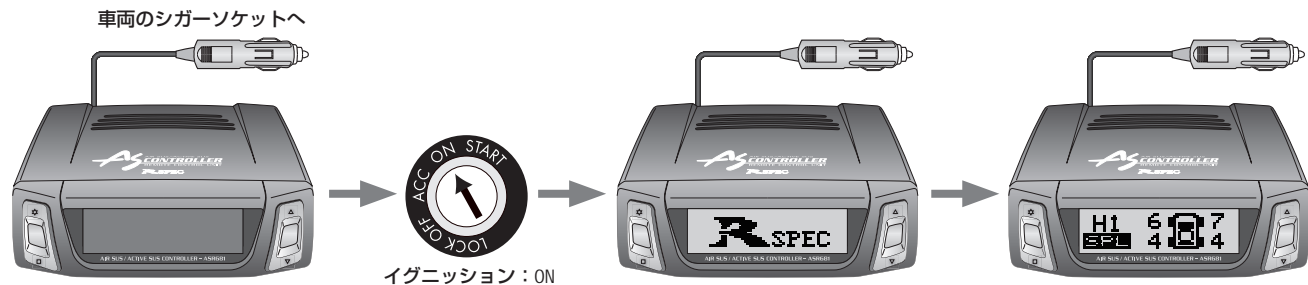
ONE POINT

- SELECTスイッチを押さずに車両側イグニッションスイッチをOFFにすると設定が決定されません。
- 保安基準設定モードで設定を変更、または同一の設定を選んで決定すると、車高設定値が初期値に戻ります。

重要 初期設定終了後、5ページ下「SPd表示確認について」を参照の上、SPd表示確認を必ずおこなってください。

コントロールユニットの電源を入れる

充電ケーブル接続時 イグニッションキー ON / OFF に連動して電源 ON / OFF します。



充電ケーブル未接続時 いずれかのスイッチを押すと電源がONになります。



ONE POINT 電源をOFFにするにはSENDスイッチを3秒以上押し続けるか、または何も操作せずに5分以上経過すると自動的に電源がOFFになります。

車高メモリー・ノーマル復帰

お気に入りの車高設定をコントロールユニットにメモリーできます。また、ノーマル制御に復帰できます。詳しくは19ページをご参照ください。



車高設定値と車高の関係 (全車種共通)

車高設定値	保安基準解除設定		
	保安基準解除設定	車高設定範囲	
F	HIGH	↑ 高くなる	
E			
D			
C			
B			
A			
0			
1			
2			
3			
4			
5	NORMAL	↑ 高くなる ↓ 低くなる	
6			
7			
8			
9			
L			LOW

車高設定値	保安基準設定			
	保安基準設定	車高設定範囲		
B	HIGH	↑ 高くなる		
A				
0				
1				
2				
3				
4				
5			LOW	↓ 低くなる

※保安基準設定については15ページをご参照ください。

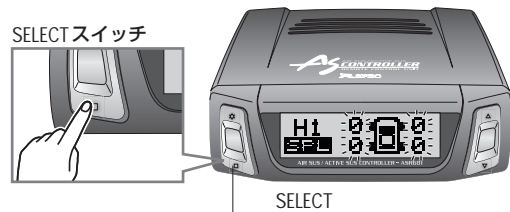
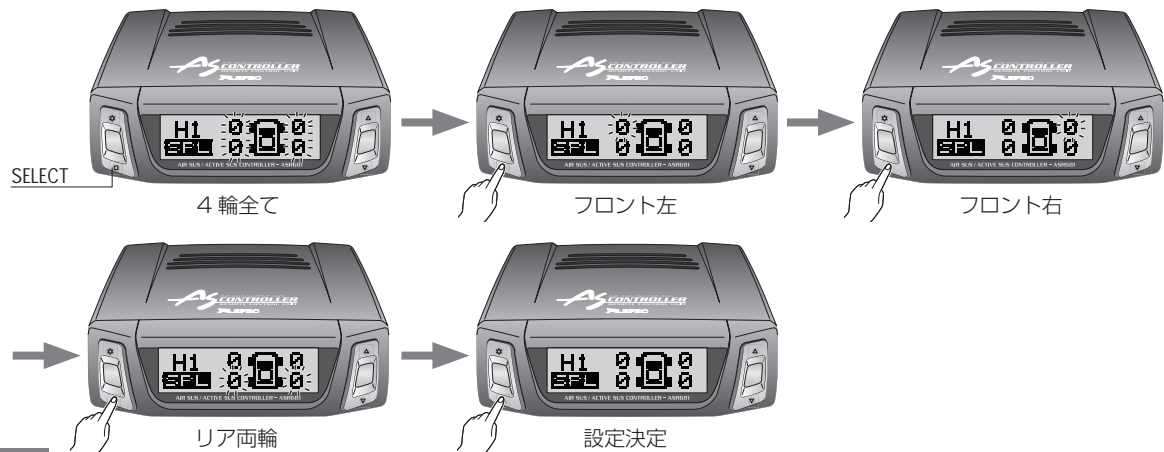
基本的な使い方 [車高設定]

コントロールユニットでの車高設定

1. 18ページ参照の上、設定変更したい車高メモリーを選択します。

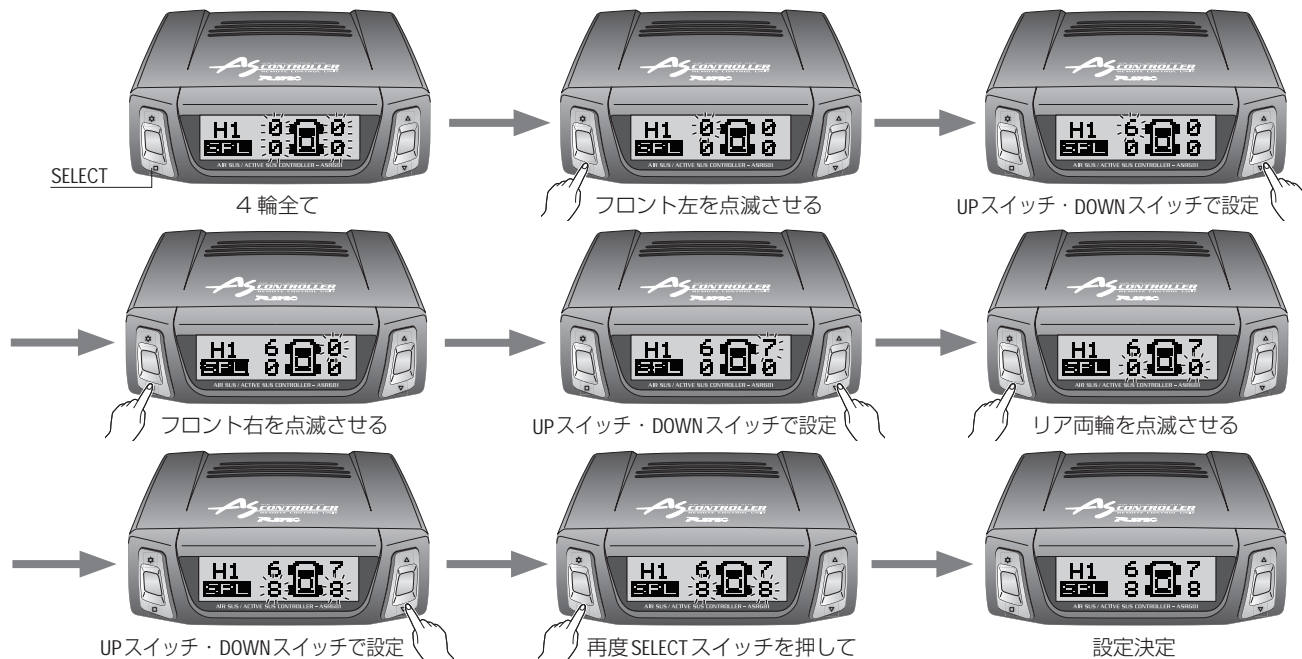
2. SELECTスイッチを押すと各輪の車高設定値が点滅します。

3. SELECTスイッチを押すごとに点滅箇所が以下のように切り替わります。



4. 点滅している箇所の設定値が変更できます。設定はUPスイッチ及びDOWNスイッチでおこないます。

例) フロント左：6 フロント右：7 リア：8を設定する場合



ONE POINT

いずれかが点滅しているときにSENDスイッチを押すと、設定値が決定されます。設定変更中でも車高は変化を始めます。

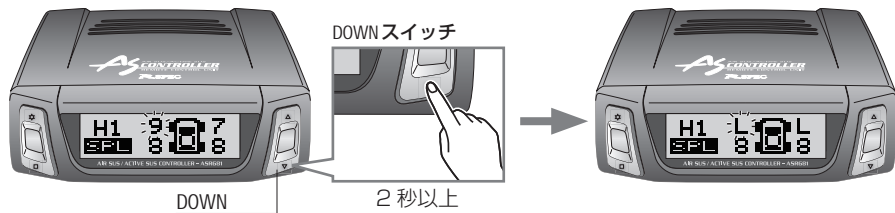
基本的な使い方 [車高設定] のつづき

スーパー LOW 設定方法

1. 19 ~ 20 ページ参照の上、車高設定値を最大値の「9」に設定します。



2. 「9」が点滅している状態で、DOWNスイッチを2秒以上押し続けると車高設定値が「L」に切り替わります。

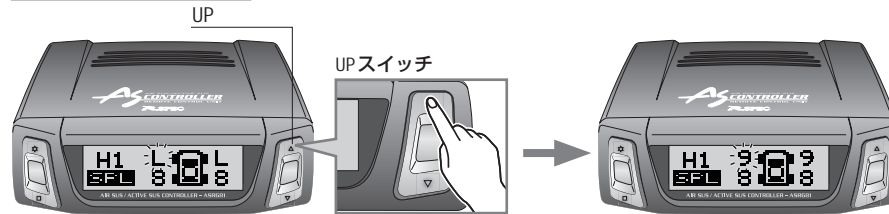


ONE POINT

フロントをスーパー LOW に設定する場合、左右いずれかのみスーパー LOW 設定にすると必ずもう一方もスーパー LOW 設定になります。フロントいずれかのみスーパー LOW 設定することはできません。

スーパー LOW 設定解除

「L」設定を点滅させて UP スイッチを押してください。車高設定値が「9」に切り替わります。



ONE POINT

- いずれかが点滅しているときに何も操作せずに 30 秒経過すると、自動的に設定値が決定されます。
- 前後またはフロント左右の車高設定値が異なった状態で 4 輪同時車高設定をおこなった場合、その設定値差を保ったまま値が変更されますが、最上限値または最下限値に達した値はそれ以上変化しなくなり、最上限値または最下限値に達していない値のみ変化します。
- 前後独立設定をおこなう場合は、フロントとリアそれぞれ独立して車高を設定してください。
- 左右バランス調整をおこなう場合は、フロント車高の高い側を下げるか、または低い側を上げてください。
- 左右バランス調整しても左右で 1 ~ 2cm 程度の誤差が生じる場合がありますが、エア（アクティブ）サスペンションの特性上から起こるもので、故障ではありません。
- リアの左右を独立して設定することはできません。



重要

車高設定はコントロールユニットで設定することをお勧めします。コントロールユニットと本体とが通信した際、車高設定を含めた本体内の全ての設定値をコントロールユニット内の設定値に更新しますので、本体で設定した値よりもコントロールユニットで設定した値のほうが優先されます。(但し、車種設定値のみ更新されません)



注意

- 車高設定値を変更するときは、一度に大きく変化させずに 3 段階ほど変化させ、車高変化が落ち着いてから再度設定変更、という手順をおこなうと水平に下がりやすくなります。車高設定値を一度に大きく変化させると、傾いたり車両側が車高制御を中止する場合があります。
- 設定変更中でも車高は変化を始めます。

車種別注意事項

●ランドクルーザー 100・シグナス/ハリアー / UCF31 セルシオ / UZS186・187 マジェスタ・レクサスLSでご使用になる場合

車高設定時や車高メモリー切り替え時、高速走行時（セルシオマイナー後・マジェスタ・レクサスLS）に車両側ハイトインジケーターが自動的に点灯または点滅等の表示動作をおこないますが、本製品の車高制御によるもので故障や異常ではありません。

車両側ハイトインジケーター（メーターパネル内）

ランドクルーザー 100 ハリアー	● HI ● N ● LO	セルシオ UCF31	マルチインフォメーション ディスプレイ表示 HEIGHT HI	マジェスタ UZS186・187 レクサスLS ※図とは位置が異なります。	
----------------------	---------------------	---------------	---------------------------------------	--	--

●ランドクルーザー 100・シグナス / ハリアーでご使用になる場合

車両側ハイトスイッチは使用しないでください。「NORMAL」以外の車高メモリー（H1・H2）選択時は、車高設定値に関係なく車両側ハイトスイッチ操作（HI 側・LOW 側共）をおこなうと、本体に右図の警告画面を表示すると共に車両側モード表示ランプが自動的に「N」に戻ります。本製品による車高設定と車両側ハイトスイッチとの併用はできません。

車両側 ハイトスイッチ		本体警告画面表示	
----------------	--	----------	--

●ランドクルーザー 100・シグナスでご使用になる場合

車高設定をおこなう際は、必ず全てのドアを閉じてください。ドアが開いている状態では車高が変化しません。

●ハリアー「乗降モード」について

純正機能の「乗降モード」は使用しないでください。「NORMAL」以外の車高メモリー（H1 または H2）選択時は、純正機能の「乗降モード」をONにしないでください。「乗降モード」をONにすると予期せぬ不具合が発生する場合があります。本製品による車高設定と、「乗降モード」との併用はできません。

ハリアー「乗降モード」スイッチ	
併用禁止！	

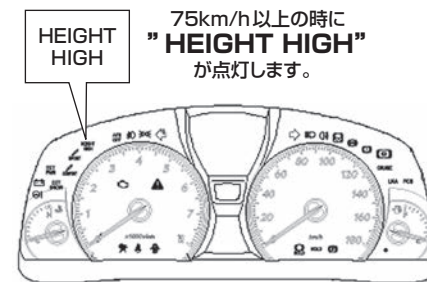
●レクサスLSでご使用になる場合

車高メモリー（H1 または H2）を選択している場合、速度 75km/h 以上では車高制御を停止し車高は一定のままになります。この時「HEIGHT HIGH」インジケーターが点灯します*1 が、制御が正しく働いているためであり、異常ではありません。

速度 60km/h まで低下するとこの制御は解除され、インジケーターは消灯し車高制御が始まります。

「HEIGHT HIGH」インジケーター点灯中は車高設定値・車高メモリーを変更しても車高は変わりません。また標準で装備されている高速走行時（速度 100km/h 以上）で車高を 1.5cm 下げる機能と「HEIGHT HIGH」スイッチ操作時、速度 80km/h 以上でノーマル車高に戻す（2cm 下げる）機能も動作しません。この動作は高速走行時の不用意な車高変化を防ぐための制御ですが、この制御によってすべての安全が確保されるわけではありません。予期せぬ車高変化や車高設定値によっては本製品で設定した車高よりも下がってしまう場合もあります。よって走行する際は必ず車高メモリーを「NORMAL」*2 に設定し、ノーマル車高に戻ったことを確認してから走行してください。

- *1 「HEIGHT HIGH インジケーター」を点灯させないようにすることはできません。
- *2 「NORMAL」設定時は上記制御は動作せず、純正の車高制御のみおこなわれます。



車種別注意事項のつづき

●レクサス RX350/RX450h でご使用になる場合

●駐車中の車高について

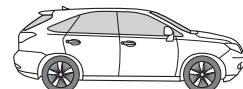
本製品で車高を上げた状態でイグニッションスイッチをOFFにするとノーマル車高に戻ります。これは車両側車高制御上の正常な動作であり、故障ではありませんので予めご了承ください。本製品で下げた車高はイグニッションスイッチをOFFにしても維持されます。

本製品での車高UP



エンジン始動中

イグニッション：OFF



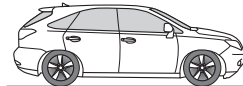
ノーマル車高に戻る

本製品での車高DOWN



エンジン始動中

イグニッション：OFF



DOWN車高を維持

●荷室モードについて

イグニッションスイッチOFF中、本製品で車高を下げた状態では荷室モード※が動作しない場合があります。また、動作してもノーマル車高より30mm以上、下がることはありません。

※イグニッションスイッチOFF中に、荷室にあるハイトコントロールスイッチ操作により車高を30mm下げる純正機能を指します。

●ハイトスイッチとの併用不可

「NORMAL」以外の車高メモリー（H1またはH2）選択中は、車高設定値に関係なく運転席側及び荷室側ハイトスイッチ操作（HI側・LO側共）をおこなうと、本体に下図の警告画面を表示すると共に車両側モード表示ランプが自動的に「N」に戻ります。本製品による車高設定と車両側ハイトスイッチとの併用はできません。

「NORMAL」選択中は車両側ハイトスイッチが使用できます。

車両側
ハイトスイッチ



本体警告画面表示



●高速走行時の制御について

純正の機能により高速走行（速度100km/h以上）時に約20mm車高が下がります。本製品で車高を下げた状態でもこの純正機能は働きますので、本製品で設定した車高よりも更に下がる可能性があります。よって走行する際は必ず車高メモリーを「NORMAL」に設定し、ノーマル車高に戻ったことを確認してから走行してください（車高メモリーについては18ページを参照してください）。

「NORMAL」以外の車高メモリー（H1またはH2）を選択している場合、純正機能による車高の下がりすぎを極力抑える為、本製品により速度95km/h以上で車高を約20mm上昇させます※。また、この制御は速度75km/h以下になるまで持続し、その後設定した車高に戻ります。但し、この制御によって100%の安全が確保されるわけではありません。予期せぬ車高変化や車高設定値によっては本製品で設定した車高よりも下がる場合もあります。よって走行する際は必ず車高メモリーを「NORMAL」に設定し、ノーマル車高に戻ったことを確認してから走行してください。

※ノーマル車高よりも下げている場合にこの制御が作動しますが、この制御によって車高がノーマルよりも上昇することはありません。また、ノーマル車高以上に車高を上げた設定にしている場合、この制御は作動しません。

●UCF31 セルシオマイナーチェンジ後およびUZS186・187・URS206 マジェスタでご使用になる場合

UCF31 セルシオマイナー後（H15.8～H18.9）/UZS186・187 マジェスタ / URS206 マジェスタは、純正の機能により高速走行（速度100km/h以上）時に約20～30mm車高が下がります。本製品で車高を下げた状態でもこの純正機能は働きますので、本製品で設定した車高よりも更に下がる可能性があります。よって走行する際は必ず車高メモリーを「NORMAL」に設定し、ノーマル車高に戻ったことを確認してから走行してください（車高メモリーについては18ページを参照してください）。

「NORMAL」以外の車高メモリー（H1またはH2）を選択している場合、純正機能による車高の下がりすぎを極力抑える為、本製品により速度90km/h以上で車高を約20～30mm上昇させます※。また、この制御は速度70km/h（URS206 マジェスタは55km/h）以下になるまで持続し、その後設定した車高に戻ります。（この制御時に車両側ハイトインジケータが数秒間点滅しますが、異常ではありません。* URS206 マジェスタを除く）ただし、この制御によって100%の安全が確保されるわけではありません。予期せぬ車高変化や車高設定値によっては本製品で設定した車高よりも下がる場合もあります。よって走行する際は必ず車高メモリーを「NORMAL」に設定し、ノーマル車高に戻ったことを確認してから走行してください。

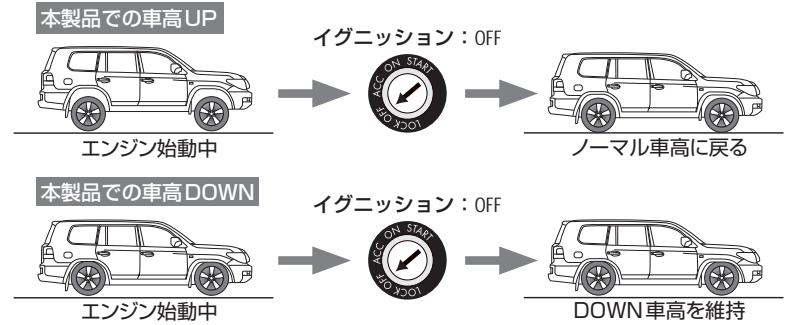
※ノーマル車高よりも下げている場合にこの制御が作動しますが、この制御によって車高がノーマルよりも上昇することはありません。また、ノーマル車高以上に車高を上げた設定にしている場合、この制御は作動しません。

車種別注意事項のつづき

●ランドクルーザー 200・レクサス LX570 でご使用になる場合

●駐車中の車高について

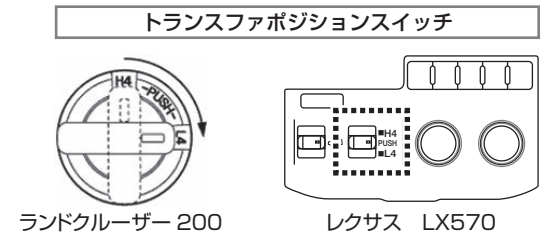
本製品で車高を上げた状態でイグニッションスイッチをOFFにするとノーマル車高に戻ります。これは車両側車高制御上の正常な動作であり、故障ではありませんので予めご了承ください。本製品で下げた車高はイグニッションスイッチをOFFにしても維持されます。



●L4 切り替え時の制御について

本製品にて車高を変化させている状態でトランスファポジションスイッチを「L4」に切り替えると、「L4」選択中は本製品での車高制御を一時的に中断してノーマル制御に戻します。この動作中は本体表示が「no」の点滅表示になります。

※L4+速度3km/h以上で車両側が自動的に車高を約50mm上げるため、本製品の車高制御と重複する事によるトラブルを防ぐための処理です。



※車種・年式によりスイッチ形状およびレイアウトが異なります。

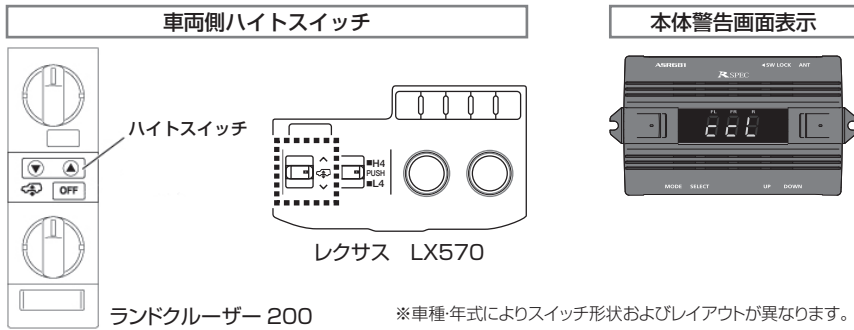
●車高メモリー切り替え時の動作について

車高メモリーを切り替える(NORMAL ↔ H1 ↔ H2)と車両側ハイトコントロールインジケータの表示がN → HI → Nと変化しますが、これは本製品の制御上の動作で故障や異常ではありません。

●ハイトスイッチとの併用不可

「NORMAL」以外の車高メモリー (H1 または H2) 選択中は、車高設定値に関係なくハイトスイッチ操作 (HI 側・LO 側共) をおこなうと、本体に右図の警告画面を表示すると共に車両側モード表示ランプが自動的に「N」に戻ります。本製品による車高設定と車両側ハイトスイッチとの併用はできません。

「NORMAL」選択中は車両側ハイトスイッチが使用できます。



●車高変更の動作について

いずれかのドアを開けていると車高は変化しません。車高を変更する際は、必ず全てのドアを閉じてからおこなってください。

●高速走行時の制御について

純正の機能により高速走行 (速度110km/h以上) 時に約20mm車高が下がります。本製品で車高を下げた状態でもこの純正機能は働きますので、本製品で設定した車高よりも更に下がる可能性があります。よって走行する際は必ず車高メモリーを「NORMAL」に設定し、ノーマル車高に戻ったことを確認してから走行してください (車高メモリーについては18ページを参照してください)。

「NORMAL」以外の車高メモリー (H1 または H2) を選択している場合、純正機能による車高の下がりすぎを極力抑える為、本製品により速度100km/h以上で車高を約20mm上昇させます*。また、この制御は速度70km/h以下になるまで持続し、その後設定した車高に戻ります。但し、この制御によって100%の安全が確保されるわけではありません。予期せぬ車高変化や車高設定値によっては本製品で設定した車高よりも下がる場合もあります。よって走行する際は必ず車高メモリーを「NORMAL」に設定し、ノーマル車高に戻ったことを確認してから走行してください。

※ノーマル車高よりも下げている場合にこの制御が作動しますが、この制御によって車高がノーマルよりも上昇することはありません。また、ノーマル車高以上に車高を上げた設定にしている場合、この制御は作動しません。

車両側ハイトスイッチとの併用について

「NORMAL」を選択している場合

車両側ハイトスイッチは純正の制御をおこないます。

「NORMAL」以外の車高メモリー（H1 または H2）を選択している場合

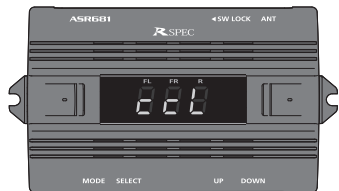
車両側ハイトスイッチを操作（車高HIGH）した場合、本製品で設定している車高に車両側ハイトスイッチによる車高変化量が加算されます。ただし、車両側ハイトスイッチの走行時制御（純正機能）はそのまま働きます。

●ランドクルーザー 100・シグナス/ハリアー / ランドクルーザー（URJ202W）/ レクサスRX / レクサスLX

車両側ハイトスイッチは使用しないでください。

「NORMAL」以外の車高メモリー（H1・H2）選択時は、車高設定値に関係なく車両側ハイトスイッチ操作（HI 側・LOW 側共）をおこなうと、本体に下図の警告画面を表示すると共に車両側モード表示ランプが自動的に「N」に戻ります。本製品による車高設定と車両側ハイトスイッチとの併用はできません。

本体警告画面表示

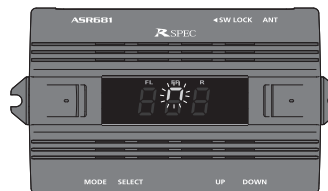


その他の機能

バルブアラーム機能

車高が変化すると、本体から音を発してお知らせします。車高が下がると「ピピッ、ピピッ・・・」、車高が上がると「ピーッ、ピーッ・・・」と音を発します。本体で以下のような表示をおこないます（コントロールユニットでは表示しません）

FR 車高 UP 時の表示



♫ピーッ、ピーッ

R 車高 DOWN 時の表示



♫ピピッ、ピピッ、ピピッ

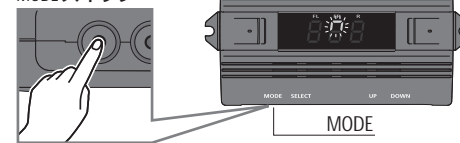
注意 ●アクティブサス車に対しては、バルブアラーム機能の音量（音量B）は表示されません。

ONE POINT

- バルブアラーム機能動作中に本体のMODEスイッチを押すと、アラーム音のみ30秒間キャンセルできます。（コントロールユニットではキャンセルできません）
- 走行中は表示のみとなり、アラーム音は鳴りません。また停車中であっても走行後30秒間はアラーム音は鳴りません。
- 音量は4段階に設定出来ます。詳しくは31ページを参照してください。
- この機能をOFFにする場合は音量設定を「0」にしてください。（本体表示はOFFにできません）

30秒間アラームOFF

MODEスイッチ



その他の機能のつづき

本体音量 (音量 A) 及びバルブアラーム機能の音量 (音量 B) の設定方法

本体音量及びバルブアラーム機能の音量は 4 段階に設定できます (初期値 : 3)。

本体音量とは (音量 A) コントロールユニット操作に対して本体が反応する際に発する音の音量です。

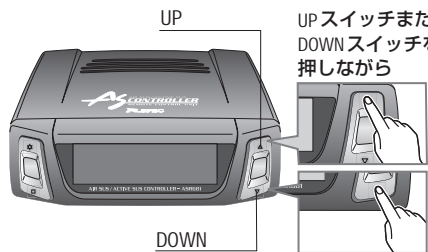
バルブアラーム機能の音量とは (音量 B) バルブアラーム機能動作時に本体が発する音の音量です。 ※アクティブサス車にこの設定はありません。

1. 車両側イグニッションスイッチ OFF の状態で、充電ケーブルを車両側シガーソケット及びコントロールユニットに接続します。
2. UP スイッチまたは DOWN スイッチを押しながら車両側イグニッションスイッチを ON にします。

車両のシガーソケットへ



イグニッション : OFF



イグニッション : ON

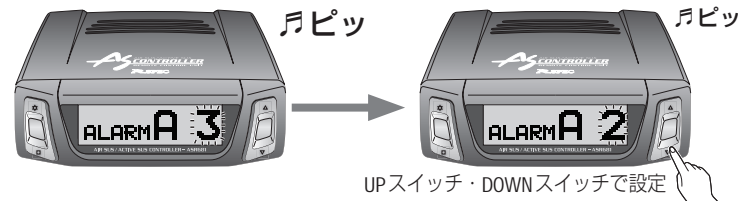
ONE POINT スイッチを押すとコントロールユニットの電源が入りますが、そのまま操作を続けます。

3. SEND スイッチを押すごとに音量 A (ALARM A) と音量 B (ALARM B) が交互に切り替わります。

SEND スイッチ



4. 音量 A、音量 B それぞれを、UP スイッチ及び DOWN スイッチで設定値を変更します。



UP スイッチ・DOWN スイッチで設定

ONE POINT この設定値を変更すると、その設定値に対する音量で本体が「ピッ」音を発します。

5. SELECT スイッチを押すか、または何も操作せずに 10 秒経過すると設定が終了しメイン表示に戻ります。

SELECT スイッチ



SELECT

ONE POINT 音を鳴らしたくない場合は音量設定を「0」にしてください。



重要

音量設定はコントロールユニットで設定することをお勧めします。コントロールユニットと本体とが通信した際、音量設定を含めた本体内の全ての設定値をコントロールユニット内の設定値に更新しますので、本体で設定した値よりもコントロールユニットで設定した値のほうが優先されます。(但し、車種設定値のみ更新されません)

正常に動作しないときは

本体およびコントロールユニットのリセット方法

正常に動作しないときや工場出荷状態に戻したいときなどに限りリセットをおこなってください。

本体のリセット

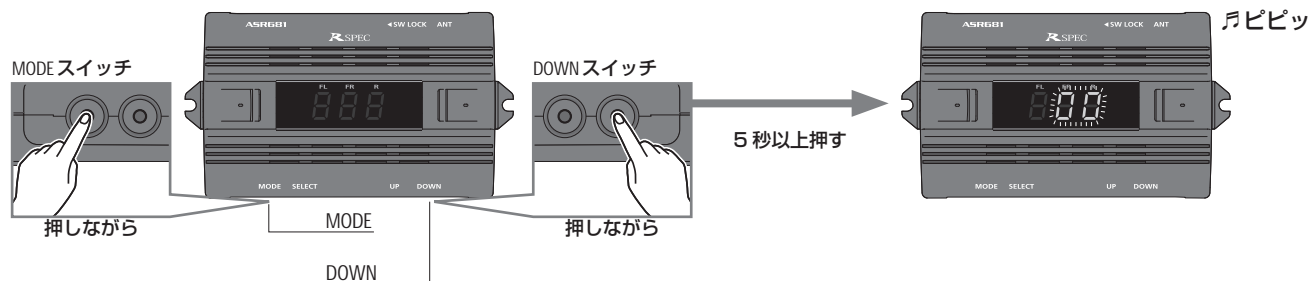
1. エンジンを始動します。



イグニッション：ON

2. MODEスイッチを押しながらDOWNスイッチを押し続けます。

3. そのまま5秒以上経過すると、「ピピッ」音を発して車種設定状態になります。



ONE POINT リセットをおこなうと、各設定値は全て出荷時の状態に戻ります。車種設定から再度設定しなおしてください(9～12ページ参照)。

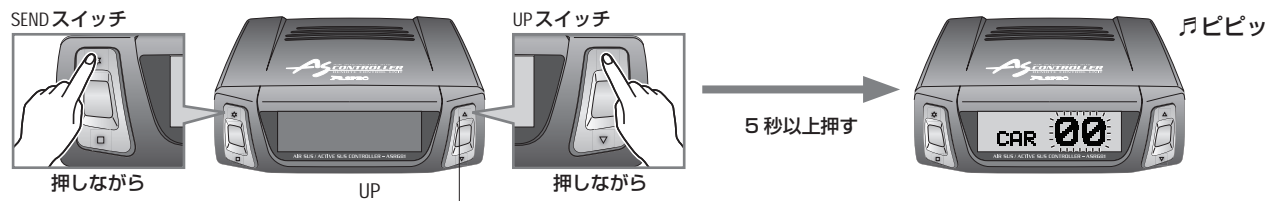
コントロールユニットのリセット

1. コントロールユニットの電源を入れます。



2. SENDスイッチを押しながらUPスイッチを押し続けます。

3. そのまま5秒以上経過すると、「ピピッ」音を発して車種設定状態になります。



ONE POINT リセットをおこなうと、各設定値は全て出荷時の状態に戻ります。車種設定から再度設定しなおしてください(13～16ページ参照)。

本体で各設定をおこなう

本体で各設定を操作する

車高設定など、全ての設定は本体でも操作可能です。



重要

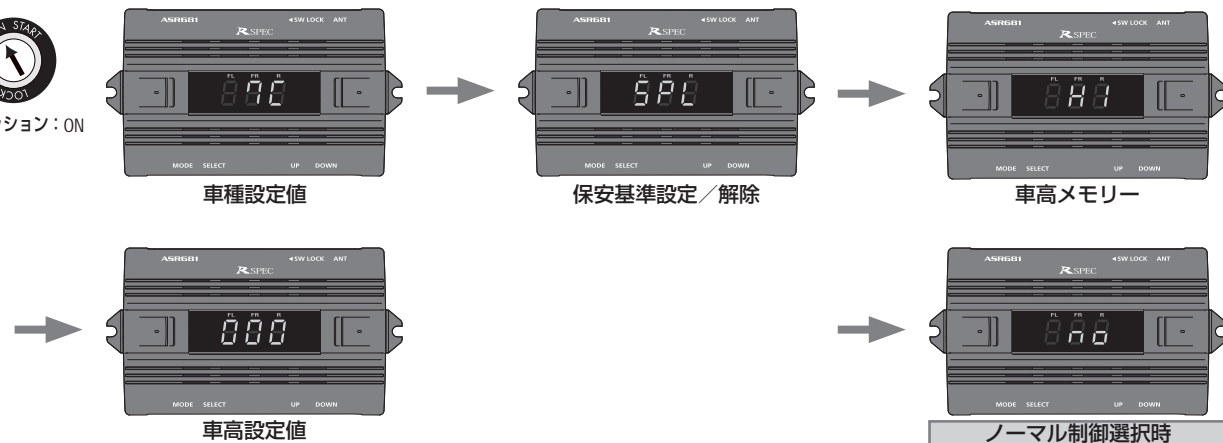
各種設定はコントロールユニットで設定することをお勧めします。コントロールユニットと本体とが通信した際、音量設定を含めた本体内の全ての設定値をコントロールユニット内の設定値に更新しますので、本体で設定した値よりもコントロールユニットで設定した値のほうが優先されます。(但し、車種設定値のみ更新されません)

本体の電源を入れる

1. 車両側イグニッションスイッチをONにすると、車種設定値、保安基準設定、車高メモリー (H1 または H2)、車高設定値 (ノーマル制御選択時は「no」) を表示します。

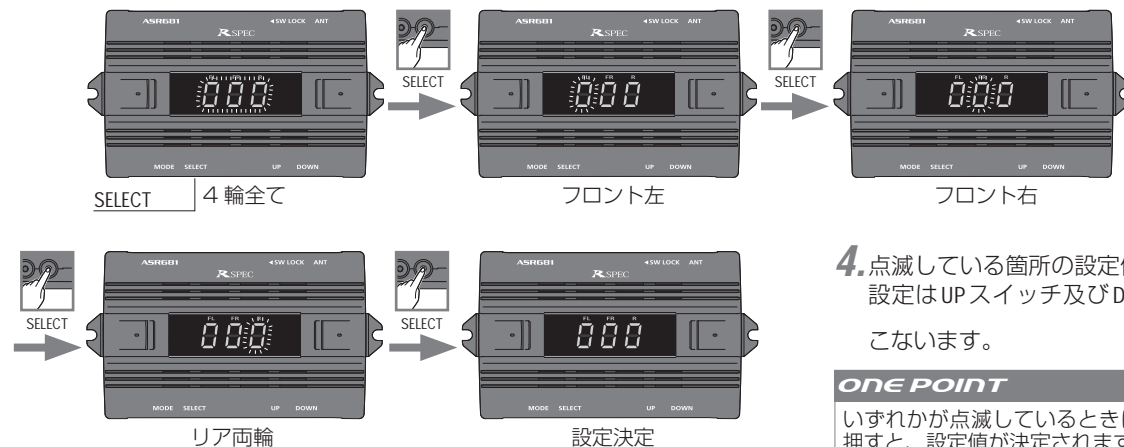
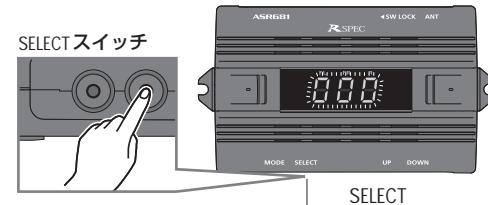


イグニッション：ON



車高設定

1. UPスイッチまたはDOWNスイッチを押して設定変更したい車高メモリーを選択します。
2. SELECTスイッチを押すと各輪の車高設定値が点滅します。
3. SELECTスイッチを押すごとに点滅箇所が以下のように切り替わります。「4輪全て」→「フロント左」→「フロント右」→「リア両輪」→設定決定



4. 点滅している箇所の設定値が変更できます。設定はUPスイッチ及びDOWNスイッチでおこないます。

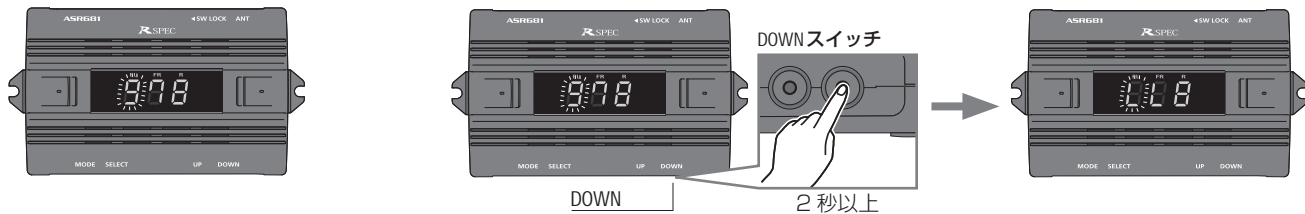
ONE POINT

いずれかが点滅しているときにMODEスイッチを押すと、設定値が決定されます。

本体で各設定をおこなうのつづき

スーパー LOW 設定

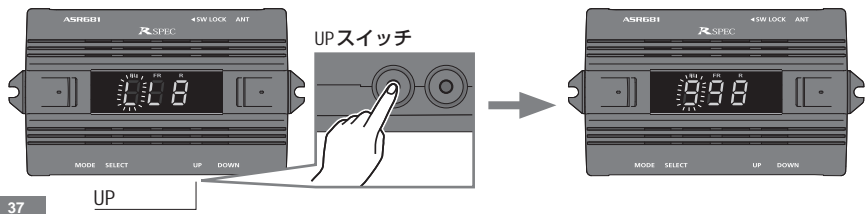
1. 車高設定値を最大値の「9」に設定します。
2. 「9」が点滅している状態で、DOWNスイッチを2秒以上押し続けると車高設定値が「L」に切り替わります。



ONE POINT フロントをスーパー LOW に設定する場合、左右いずれかのみスーパー LOW 設定にすると必ずもう一方もスーパー LOW 設定になります。フロントいずれかのみスーパー LOW 設定することはできません。

スーパー LOW 設定解除

「L」設定を点滅させてUPスイッチを押してください。車高設定値が「9」に切り替わります。



注意

- 車高設定値を変更するときは、一度に大きく変化させずに3段階ほど変化させ、車高変化が落ち着いてから再度設定変更、という手順をおこなうと水平に下がりやすくなります。車高設定値を一度に大きく変化させると、傾いたり車両側が車高制御を中止する場合があります。
- 設定変更中でも車高は変化を始めます。

本体音量 (音量 A) 及びバルブアラーム機能の音量 (音量 B) の設定方法

各音量については 31 ページをご参照ください。

1. UPスイッチまたはDOWNスイッチを押しながら車両側イグニッションスイッチをONにします。

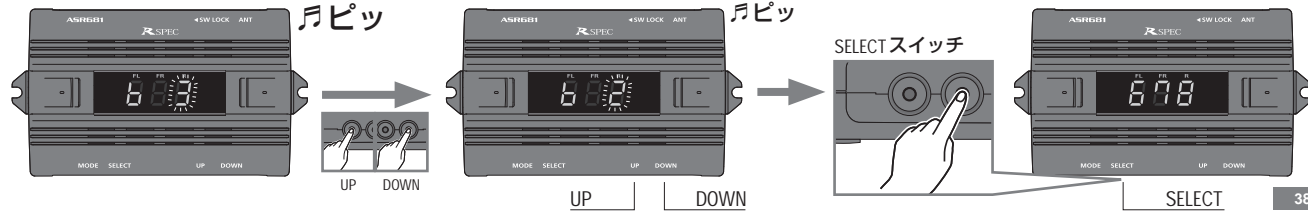


2. MODEスイッチを押すごとに音量A (A) と音量B (b) が交互に切り替わります。※アクティブサス車に音量B設定はありません。

ONE POINT 設定値を変更すると、その設定値に対する音量で本体が「ピッ」音を発します。

3. 音量A、音量BそれぞれをUPスイッチ及びDOWNスイッチで設定値を変更します。SELECTスイッチを押すか、または何も操作せずに10秒経過すると設定が終了します。

ONE POINT 音を鳴らしたくない場合は音量設定を「0」にしてください。



故障かな？と思ったら

症状	確認してください
電源が入らない。 車両側警告ランプが点滅または点灯する。	<ul style="list-style-type: none"> ●イグニッションキーをOFFにし、車種別専用ハーネスのコネクターを抜き差しして、接触を確認してください。 ●車種別専用ハーネスの品番をご確認ください。 ●車種別専用ハーネスは確実に接続されていますか？
車高設定が「5」より下がらない。 スーパー LOW 設定ができない。	● 保安基準設定になっていませんか？ 18 ページ「車高設定値と車高の関係」及び 15 ページ「初期設定方法」をお読みください。
イグニッションスイッチをOFFにしても本体の電源がOFFにならない。	●UZS143 マジェスタ4WD・アリスト4WD/UZS141・JZS149 マジェスタ/UZZ31 ソアラの場合、イグニッションスイッチOFF後、約3分で自動的に電源がOFFとなります。
車高が左右で異なる。	<ul style="list-style-type: none"> ●左右バランスを調整しましたか？ ●水平な場所で車高を設定しましたか？ <p>※左右で 1 ～ 2cm 程度の誤差が生じる場合がありますが、エア（アクティブ）サスペンションの特性上から起こるもので故障ではありません。</p>
設定しても車高が変化しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スーパー LOW 設定後の場合、車高設定を「5」以上に上げてください。 ●エア（アクティブ）サスコンピューターが車高制御を中止している可能性があります。バッテリーマイナス端子を1分以上外してください。 <p>※1 ～ 3 段階程度の設定変更の場合、エア（アクティブ）サスペンションの特性上から車高が変化しない場合があります。</p>
車高が勝手に変化していることがある。	●1 ～ 2cm 程度の車高変化が生じる場合がありますが、エア（アクティブ）サスペンションの特性上から起こるもので、故障ではありません。
4 輪全て同時に車高が変化しない。	●車両側車高制御上の正常動作です。
駐車中に車高が下がっている場合がある。	●エンジン作動中以外は車高制御はおこなわれません。車両側サスペンションシステムの異常が考えられます。
エンジンを切ると車高がノーマルになる。	●日産アクティブサス車の場合はエンジンを切ると車高がノーマルに戻ります。

症状	確認してください
バルブアラーム機能が動作しっぱなしになる	<ul style="list-style-type: none"> ●車種設定値は正しく設定されていますか？ ●車高が下がってきた状態で、車高を下げる制御を続けている場合に発生します。原因は、車両側車高センサー基準値が本機に登録されている基準値と合致していないためです。車高設定値を数段上げるか、またはバルブアラーム機能の音量設定（音量B）を「0」にしてください。（31 ～ 32 ページ参照）
コントロールユニットを操作すると本体から「ピピピピ」音を発するとともに本体が「Err」表示をする。	●コントロールユニットと本体いずれかの車種設定値が正しくありません。9 ～ 16 ページを参照の上、初期設定をやり直してください。
コントロールユニットが熱くなる	●充電中は高温（最大60℃）になりますが故障ではありません。充電終了後、自動的に温度が下がります。尚、エンジン始動する度に（IGキー ONにする度に）必ず充電が開始されコントロールユニットの温度が上がりますが故障ではありません。
本体のスイッチ操作ができない	●本体のSWロックスイッチがSW LOCK 側にスライドしているとスイッチ操作ができませんので、反対側にスライドさせてください。（5 ページ参照）
走行中に車高が勝手に変化する	●UCF31 セルシオマイナー後（H15.8 ～ H18.5）、UZS186・187・URS206・UZS207 マジェスタ、URJ202W ランドクルーザー、レクサスRX、レクサスLXは純正の機能により、車両側エアサス（アクティブサス）コンピューターが走行状況に応じて、自動的に車高を変化させる場合があります。（26 ページ参照）

メーカー	エアサス/アクティブサス	車名	型式	年式	車種設定値
トヨタ	エアサス	マジエスタ	UZS141・JZS149	H3.10～H7.8	6A
		ソアラ	UZZ31	H3.5～H9.8	6A
		マジエスタ	UZS151	H7.9～H11.9	6A
		マジエスタ 4WD	UZS143	H4.10～H7.8	6F
		アリスト 4WD	UZS143	H4.10～H9.8	6F
		マジエスタ 4WD	UZS155	H7.9～H11.9	6F
		マジエスタ・マジエスタ 4WD	UZS171・173	H11.10～H16.6	6C
		マジエスタ	UZS186	H16.7～H21.2	7E
		マジエスタ 4WD	UZS187	H16.7～H21.2	7E
		マジエスタ・マジエスタ 4WD	URS206・UZS207	H21.3～H25.8	62
		セルシオ	UCF21	H6.10～H12.8	7C
		セルシオマイナー前	UCF31	H12.9～H15.7	67
		セルシオマイナー後	UCF31	H15.8～H18.9	7E
	ハリアー	MCU31・36/GSU31・36	H15.2～H20.12	b0	
アクティブサス	ランドクルーザー 100・シグナス	UZJ100W・HDJ101K	H10.2～H19.9	A0	
	ランドクルーザー	URJ202W	H21.5～	C1	
レクサス	エアサス	LS460	USF40・45	H18.9～H29.10	77
		LS460L	USF41・46	H20.9～H29.10	77
		LS600h	UVF45	H19.5～H29.10	77
		LS600hL	UVF46	H19.5～H29.10	77
		RX350 / RX450h	GGL16 / GYL16	H21.1～H24.3 / H21.4～H27.10	b1
	アクティブサス	LX570	URJ201W	H27.9～	C2
日産	エアサス	セドリック・グロリア	Y32	H3.6～H7.5	50
		セドリック・グロリア	Y31	S62.6～H3.6	80
		シーマ	Y31	S63.1～H3.8	80
	アクティブサス	シーマ	FGDY32	H3.8～H8.5	90
		シーマ	FGDY33	H8.6～H12.12	93
		インフィニティ Q45	HG50	H1.10～H9.9	90
		プレジデント	JHG50	H2.10～H14.8	90
プレジデント JS	PHG50	H4.2～H14.8	90		

アフターサービスについて

製品に関してのご相談は当社サービス課までお問い合わせください。

- 製品の調子が悪いとき(39～40ページ「故障かな?と思ったら」を参考に一度お調べください)。
- 製品を破損、損傷してしまった場合
- 製品の性能、機能に関してのご質問

メーカー保証について

付属の保証書に必要な事項を全てご記入ください。特に販売店印及びご購入日の記入が無い場合、保証書は無効となります。保証期間を有効にするために、必ずユーザー登録をおこなってください。

※保証期間はご購入日を含めて「1年間」となります。

※ユーザー登録をおこなわない場合、保証期間は無効となります。

※保証規定は保証書を参照してください。

※保証書は如何なる理由があっても再発行致しませんので、あらかじめご了承ください。

本製品に貼付されている封印シールをはがさないでください。はがすと保証期間に関わらず、保証対象外となります。

充電池に関する注意

コントロールユニットに内蔵されている充電池はリサイクル可能です。この充電池の取り外しはお客様ご自身ではおこなわず、弊社にご相談ください。

ユーザー登録のお願い

製品と同梱の「ユーザー保証登録カード」に必要な事項を全てご記入頂き返送いただくか、インターネット上にて登録をおこなってください。

URL: <https://www.datasystem.co.jp/>



ご相談窓口

 **お電話 086-486-0442** サービス(技術的なお問い合わせ・修理受付) 【受付時間】月曜日～金曜日 10:00～12:00 / 13:00～17:30
(年末年始/祝日など、弊社休業日を除く)

 **メールでのお問い合わせ(PC)**
<https://www.datasystem.co.jp/support/mail/>

 **メールでのお問い合わせ(スマートフォン)**
<https://www.datasystem.co.jp/sp/support/>



 **Data System 株式会社 データシステム**

<https://www.datasystem.co.jp/>

■ [本社] 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-18-2 ■ [倉敷支社] 〒712-8061 岡山県倉敷市神田 1-1-11

弊社に無断で本説明書の内容、図、写真の全部または一部の複製(コピー)・転用・転載を禁じます。

※表紙の写真はイメージです。純正サイズ以外のタイヤ・ホイールを装着した車両には本製品を取り付けしないでください。

本取扱説明書は保証書と共に大切に保管してください。

ASR681II-1804-AN